



平成25年4月3日 大般若会 転読

雲林寺報

第15号
2013年夏号
吾妻郡長野原町73
大洞山 雲林寺
TEL0279-82-2201

梅花流詠讃歌 曲紹介

まごころに生きる

シンガーソングライターの南こうせつ作詞作曲による最もポピュラーな梅花流詠讃歌です。南こうせつ自身も曹洞宗勝光寺(大分県)の三男であり、曹洞宗より依頼されこの詠讃歌が生まれました。

い ま を あ い し て い こ う

今年の全国大会では埼玉、千葉、山梨と群馬県の合同登壇で、うち群馬県の参加者は三十七名とことごとし。雲林寺講から十四名の方に参加して頂きました。代表登壇は宮崎八ナさん、篠原禮子さん、落合雅子さん、依田たつ子さん、山本節子さん、山崎トシヨさんの六名の方が選出され、そのお役目を立派に果たされました。法具を捧持し、ライトのまぶしい壇上に立つということは思いのほか、労力を必要とします。六名の皆様お疲れ様でございました。

清興では、さとう宗幸さんの青葉城恋歌やその他の歌の音量の豊かさに感動したのは多分、私だけではないかと思いません。そしてまた、来年の開催地出雲の国での再会を誓い会場を後にしました。

雲林寺では毎月2回2時間程度(詠歌(梅花流)の会が)ございます。参加費は無料です。ご詠歌は、ご供養の気持ちを心温まるメロディーにのせて歌います。初めての方でも是非お気軽にお越しください。お待ちしております。

梅花流たより



平成25年5月29日と30日の2日間にわたり、宮城県利府町の「グランディ21」において、平成25年度梅花流全国奉詠大会が開催されました。今大会では東日本大震災被災者三回忌法要が併修され、2日間を通して、約11000人の梅花講員が参加し、鎮魂と復興への祈りを捧げました。

まごころに生きる
南こうせつ作詞作曲

一、そよ吹く風に 小鳥啼き
川の流るも ささやくよ
季節の花は うつりゆき
愛しい人は 今いずこ

※ほほえみひとつ 涙ひとつ
出逢いも別れも 抱きしめて
生きてる今を愛して行こう

二、広がる海は はてしなく
全ての命 おおらかに
人の心も おおらかに
互いを敬い 信じ合おう

※くりかえし

三、幼い頃に いだかれた
温もり今も 忘れな
この世でうけた 幸せを
そっとあなたに 捧げましょ

※くりかえし

日々是好日、合掌のうちにご精励の事と存じます。常日頃より山護持のために御協力を賜りましてありがとうございます。このところスマートフォンやインターネットなどの技術がめまぐるしく発達し、生活が豊かで便利になっていく反面、かえって時間や約束事に追われ、慌ただしい日々を送られる方も多いのではないのでしょうか？曹洞宗には「禅戒一如(ぜんかいいちよ)」ということがあります。この「禅戒一如」を守っていることは戒律(仏教のきまり)を守っていることと同じである、といった意味の言葉です。皆様は「禅」といえば坐禅の様子を想像されるのではないのでしょうか？実はそれだけでなく行住坐臥一挙手一投足の全ても禅修行の一環です。昔から伝えられてきた教えがあるのです。例えば道元禅師は書きになった本の中で洗面や歯磨き、食事の作法を説いていらっしやいますし、瑩山禅師も「お茶を出されたらお茶を飲み、食事を出されたら食事をいただきなさい」とおっしゃっています。このおしりのように何気ない日常の行動を一心に行うことが「禅」であり、仏さまの教えであると考えているのです。

私たちは、忙しさに追われ、どうしても日頃の些細なことをおろそかにしてしまいがちです。日常の当たり前の行い、一つ一つを大事に過ごしてみませんか？きっと新たな発見があると思います

雲林寺住職 轟 紀久

花まつり 富澤 ふじ江

いつもの様に新聞に目を通して見覚えのある活字にハッとしました。それは一昨年のホテル天坊での研修会で「幸は梅花なり」の法話講師の峯岸正典先生のお名前だったのです。先生は「和」について色々書いておられました。その中の一つにこの記事が載った時期が丁度お花見の頃だったのでその宴の様子をこう書いておりました。「和」についての漢字の「のぎへん」は稲を表し「つくり」の口はお米を表しているとのこと。そこでお花見の時にみんまで持ち寄った食べ物もみんな分けて合図。独り占めせず自分だけで良ければいいということもなく、ご馳走の近くに人、みんながよいように遠くの方まで目配りする、これが和としての原点のようだと書いておられました。私たちにも共通の行いがありました。それは四月八日、お釈迦様の誕生をお祝いする花まつりの時のことです。花御堂に安置されているお釈迦様像に私達は甘茶をかけ、手を合わせ、そして釈尊祭御和讃をお唱えして誕生をお祝いします。お唱え後、奥様の心尽くしの手料理と幾人かの方の持ち寄ったお品を楽しく頂きながらよもやま話でとてもにぎやかです。

自然にコミュニケーションが計れる和やかないつのときを過ごしました。

この掲載記事を読みながら私たちのこの集いも「和」としての基本なのではないかとつくづく感じ取れた花まつりの一日でした。

編集後記

毎年お盆の時期になると「枝葉栄えんと欲せば、先ずその根を養うべし」という言葉が特に身にしみみます。根がなくては木は立ちません。根が枯れてしまうと、幹も太らず、枝葉は茂らず、春が来ても美しい花を咲かせることはできません。根は先祖であり、幹は両親、そして枝葉は子孫です。父母、祖先を敬い供養することはその形見である我が身を大切にすることであり、子孫によく受け継がれるものになります。故に昔からよく言われたものです。「身を立って家を興す人、必ず先亡の供養を怠る者なし」と。

副住職 轟 省吾

護持会だより 第一回通常総会が開催されました

六月三〇日、総代世話人総数四十二名中出席者二十四名、委任状提出者十七名により総会が開催されました。詳細は同封資料をご覧ください。

(総代) 一〇名の役職が正式に決まりました。

<p>会長 萩原昭朗</p> <p>副会長 櫻井芳樹</p> <p>書記 長谷川誠</p> <p>黒岩元</p>	<p>会計 山口次夫</p> <p>永井芳司</p> <p>野口敏幸</p> <p>櫻井輝久</p> <p>宮崎透</p>	<p>幹事 黒岩元</p> <p>櫻井輝久</p> <p>宮崎透</p>
--	---	--------------------------------------

(世話人)

<p>長野原 安斉たけ</p> <p>大津 黒岩保男</p> <p>羽根尾 湯本定由</p> <p>与喜屋 浅見良雄</p> <p>横壁 櫻井敏雄</p> <p>林 秋原進夫</p> <p>川原湯・川原寛 金子茂雄</p> <p>北原井沢 小林寛</p> <p>青木博文 豊原憲一</p> <p>宮田一雄 清水満洲夫</p> <p>吉田昇 岩田紀重</p> <p>柳沢豊</p>	<p>市川儀一</p> <p>宮崎広保</p> <p>山崎敷男</p> <p>市村真</p> <p>塩野英介</p> <p>櫻井守夫</p> <p>篠原忠秋</p>	<p>黒岩範一</p> <p>山口喜正</p> <p>小林喜一郎</p> <p>湯本茂 吉澤功</p> <p>山口義秋</p>
---	--	---

第一回通常総会の様子です。

草津温泉ホテルにて開催された様子。